

## 学力向上フロンティア事業中間報告書

都道府県名	福 島 県
-------	-------

### 学校の概要

学 校 名	白 河 市 立 白 河 第 三 小 学 校								
学 年	1 学 年	2 学 年	3 学 年	4 学 年	5 学 年	6 学 年	養 護 学 級	計	教 員 数
学 級 数	4	4	3	3	3	3	2	2 2	
児 童 数	1 1 4	1 1 3	9 4	9 3	1 0 6	1 0 2	9	6 3 1	2 8

### 研究の概要

#### 1. 研究主題

自ら学び、自ら考える力を育む、算数科の指導

#### 2. 研究内容と方法

##### (1) 実施学年・教科

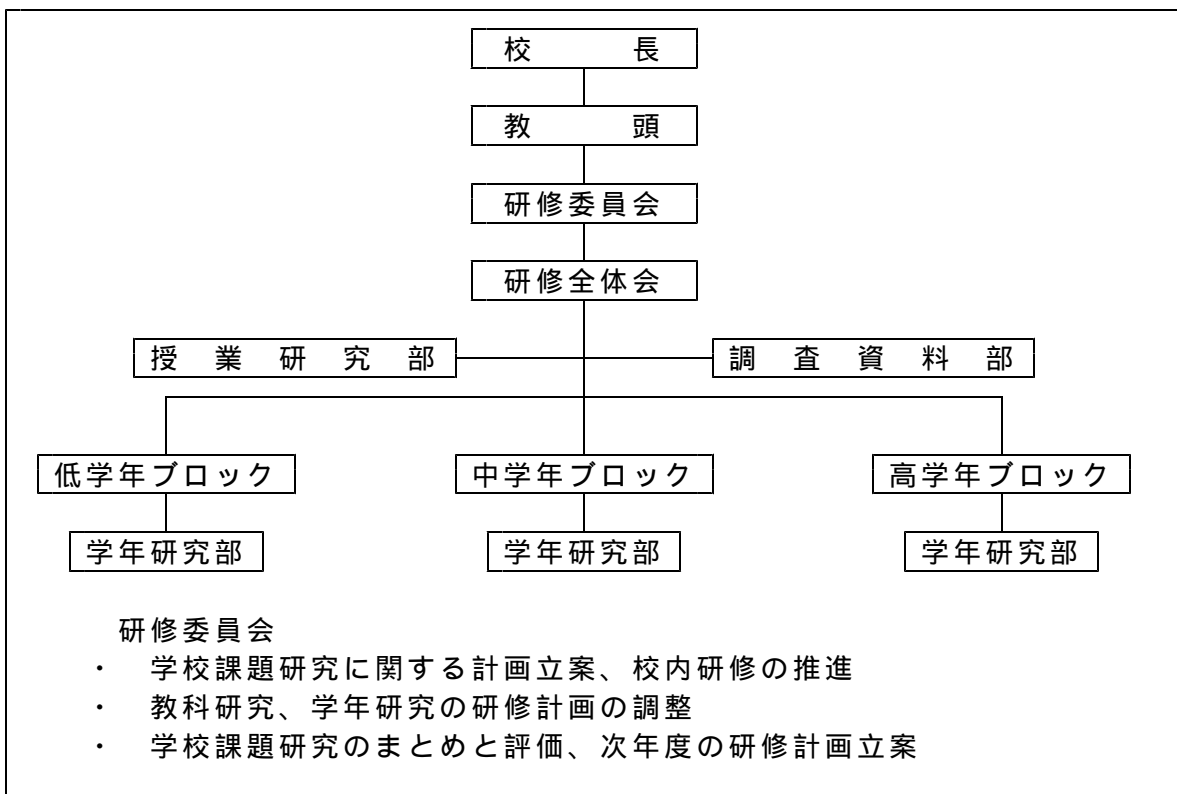
- ・ 実施学年      全学年
  - ・ 教      科      算数科
- 市の学力向上重点教科であるとともに、児童の個人差が大きいため

##### (2) 年次ごとの計画

平成 15 年 度	<p style="text-align: center;">テーマ</p> <p style="text-align: center;">自ら学び、自ら考える力を育む、算数科の指導 ～学ぶ楽しさや充実感を味わうことができる学習指導を通して～</p> <p>研究の見通し（仮説）</p> <p>個のよさを的確に把握するとともに、基礎・基本を確実に身に付け、発展的に考える力を育てる指導方法や指導体制を工夫すれば、学ぶ楽しさや充実感を味わうことができ、自ら学び、自ら考える力が育まれるであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個の把握と基礎的・基本的内容の明確化             <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 児童一人一人の興味・関心、学習スタイル、達成度等の把握</li> <li>イ 基礎・基本の洗い出しと指導内容の精選・重点化</li> </ul> </li> <li>・ 補充的な学習や発展的な学習など個に応じた指導のための教材の開発             <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 補充的な学習や発展的な学習の教材開発</li> <li>イ 子どもの問いを引き出し、学ぶ楽しさや充実感を伴う教材開発</li> </ul> </li> <li>・ 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善             <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 個の学びに寄り添った少人数指導、T・T指導</li> <li>イ 「分かる」喜びや充実感を伴う繰り返し指導や多面的な指導等の学習指導の工夫</li> <li>ウ 発展的な見方を育み、「考える」楽しさを味わわせる学習展開の工夫と支援のあり方</li> </ul> </li> </ul>
--------------------	---

平成16年度	<p>テーマ 自ら学び、自ら考える力を育む、算数科の指導 ～学び合いの中で、学ぶ楽しさや充実感を味わうことができる 学習指導を通して～</p> <p>研究の見通し（仮説） 互いの考え方や学び方のよさを認め合いながら、基礎・基本を確実に身に付け、発展的に考える力を育てる指導方法や指導体制を工夫すれば、学ぶ楽しさや数学的な見方・考え方のよさを味わうことができ、自ら学び、自ら考える力が育まれるであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個の把握と基礎的・基本的内容の明確化 <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 児童一人一人の興味・関心、学習スタイル、達成度等の把握</li> <li>イ 基礎・基本の洗い出しと指導内容の精選・重点化</li> </ul> </li> <li>・ 補充的な学習や発展的な学習など個に応じた指導のための教材の開発 <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 補充的な学習や発展的な学習の教材開発</li> <li>イ 子どもの問いや多様な考え方を引き出す教材開発</li> </ul> </li> <li>・ 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善 <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 個の学びに寄り添った少人数指導、T・T指導</li> <li>イ 「分かる」喜びや充実感を伴う繰り返し指導や多面的な指導等の学習指導の工夫</li> <li>ウ 発展的な見方を育み、「考える」楽しさを味わわせる学習展開の工夫と支援のあり方</li> <li>エ 互いの考え方や学び方のよさを認め合う場の工夫</li> </ul> </li> </ul>
--------	---

(3) 研究推進体制



研修全体会

- ・ 学校課題研究の審議、検討、及び共通理解
- ・ 学校課題研究に関する研修

授業研究部

- ・ 授業案の形式検討、授業研究の運営

調査資料部

- ・ 資料収集、児童の実態把握、アンケート等の実施

学年研究部

- ・ 学年研究計画の立案及び研究の推進
- ・ 教科の教材研究及び分析
- ・ 学級・学年児童の実態把握

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

意識調査の結果から（平成15年度の意識調査の抜粋）

<平成15年12月実施>

【表1】 設問1～算数の学習は楽しいですか？（％）

	楽しい	どちらかという楽しい	どちらかという楽しくない	楽しくない
1年	70.2	22.8	2.6	4.4
2年	56.6	29.2	6.6	7.6
3年	51.0	28.1	12.5	8.4
4年	50.0	44.6	1.0	4.4
5年	31.4	40.1	21.6	6.9
6年	32.3	55.2	11.5	1.0
全体	48.6	36.7	9.3	5.4

【表2】 設問6～自分の力で、問題を解くことは得意ですか？

	得意	どちらかという得意	どちらかという苦手	苦手
5年	14.7	47.1	34.3	3.9
6年	15.6	46.9	35.4	2.1

【表3】 設問7～みんなで考えを出しあって、問題を解くことは好きですか？

	好き	どちらかという好き	どちらかという嫌い	嫌い
5年	35.3	38.2	24.5	2.0
6年	42.7	44.8	10.4	2.1

【表4】 設問12～T・Tになって前より算数ができるようになりましたか？

	分かるようになった	どちらかという分かる	あまり前と変わらない	前とまったく変わらない
3年	63.5	11.5	20.8	4.2
4年	50.0	30.4	17.4	2.2

【表5】 設問13～少人数の学習をやってみてどう思いましたか？

	クラスでやった方がいい	少人数でやった方がいい
5年	26.5	73.5
6年	22.9	77.1

【表6】 設問14～T・Tと少人数とではどちらが学習しやすいですか？

	クラスでのT・T	クラスをばらして少人数
5年	40.2	59.8
6年	26.0	74.0

- ・ 表1からわかるように、「算数科の学習は楽しい」と答えている子どもが、全体の48.6%。「どちらかという楽しい」を含めると、85.3%という結果になっている。昨年度（研究校の指定を受ける前）の意識

調査と比較してみても、「算数科の学習は楽しい」と答えている子どもの割合が、39.4%から48.6%に上がっており、学ぶ楽しさを味わいながら学習を進めている子どもが増えていることがわかる。

- ・ T T指導と少人数指導を取り入れている高学年においては、「算数科の学習は楽しくない」「どちらかというとなじまない」と答えている子どもの割合が、5学年の場合は28.5%、6学年の場合は12.6%という結果になっている。この差を意識調査の面から考えると、次のようなことが分かる。

5学年、6学年とも「問題を解くことは得意」という設問に対しては、ほとんど同じような結果(表2)を示しているが、5学年の場合、「みんなで考えを出し合って問題を解く」ことを好まない子どもの割合が多い。(表3)また、5学年は「算数の学習が楽しくない」理由として「考えることが苦手」と答えた子どもが6学年の4人に対して15人と多い。このことから、高学年を例にとって考えると、T T指導と少人数指導などの指導体制だけでなく、友達と学び合うよさや考える楽しさを十分に味わわせていくことが大切であると考えられる。

- ・ T Tや少人数指導については、中学年において「T・Tになって前より算数が分かるようになりましたか」という問いに対して、「分かるようになった」「どちらかというとなじむようになった」と答えた割合が、77.8%。(表4)高学年において「クラスごとの学習より、少人数指導の方がよい」と答えた子どもの割合が75.3%(表5)となっている。その理由としては「自分のペースで学習できる」「先生にたくさんかかわってもらえる」ということをあげる子どもが多い。反面、少人数指導より学級ごとの学習を望んでいる子どもの意見としては「安心して学習できる」「発言しやすい」「担任の先生の方が分かりやすい」などが挙げられる。また、高学年において、T T指導と少人数指導を比べさせたところ、T T指導の割合が多かった5学年では、クラスでのT T指導を望む子どもが40.2%。学級を分解しての少人数指導を望む子どもが59.2%という結果(表6)になっている。これらのことから、ほとんどの子どもがきめ細かな指導を望んでいるということが分かる。また、6割ほどの子どもが学級を分解することにさほど抵抗を感じていないようだが、学級の中で学習することを望む子どもの意見も無視することはできないものであることが分かった。

個の把握と基礎的・基本的内容の明確化の視点から

- ・ 単元計画を作成することにより、基礎・基本の洗い出しと指導内容の重点化を図ることができた。
- ・ 少人数指導の際には、レディネステストや教師の見取り、さらにガイダンスに基づく子どもの希望等から、個の把握に努めた。そのため、柔軟なクラス編成を行うことができ、子どもの実態に応じた指導を効果的に行うことができた。

補充的な学習や発展的な学習の教材開発の視点から

- ・ 発展的な学習や補充的な学習を取り入れた単元計画作成に取り組み、発展的な学習や補充的な学習の教材開発に努めた。その結果、単元で育てたい考え方や身に付けさせたい技能は何かを意識して授業を展開することができた。

個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善の視点から

- ・ 少人数指導を行うことにより、一単位時間の中で、個別指導にかける時

間や一人一人の考え方や見方を賞賛できる場が増えた。また、習熟度別によるクラス編成を行ったことで、定着度に応じた指導が可能になり、子どもの学ぶペースに合わせながら効率的にきめ細かな指導を行うことができた。そのため、子どもたちの学ぶ意欲の向上や学習内容の定着に結びつく場面が見られた。

- ・ 少人数指導やTT指導を取り入れたことで、教師間で指導や教材に係わる情報交換の場が量的・質的にも増え、教師の授業力や単元構想力の向上に結びついた。

## 2. 今後の課題

子どもたちが自ら学び、学ぶ楽しさを実感するために、子どもの問いを引き出すような教材開発に努めていきたい。

発展的な見方や考え方を育むために、子どもの多様な考え方を引き出すような展開や発問の工夫をさらに考えていきたい。

少人数指導やTT指導については、学ぶ楽しさ、基礎・基本の定着の両面から、実施方法をさらに検討していく必要がある。また、習熟度別の場合は、子どもの内面的な部分まで十分に配慮しながら考えていかなければならない。

少人数指導やTT指導を行うためには、学年研究を充実させ、打ち合わせを計画的に行うようにしていく必要がある。

習熟度別少人数指導の評価の在り方を明らかにしていきたい

学び合うよさを生かして、学ぶ楽しさや考える楽しさを味わうことができる学習展開の在り方について考えていきたい。

### 学力等把握のための学校としての取り組み

- ・ 教研式学力テストの実施（2月）
- ・ アンケート調査
- ・ 計算コンクール（学期末）

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

方 法	実施（予定）日	形 態	場 所	対 象
研 究 会	平成15年 6月25日(水) 平成15年 9月29日(月) 平成15年10月30日(火) 平成15年11月11日(木) 平成16年6月中旬 平成16年9月上旬 平成16年11月 9日(火)	オープン授業研究会 オープン授業研究会 講演会 オープン授業研究会 オープン授業研究会 オープン授業研究会 研究発表会	本校 本校 本校 本校 本校 本校 本校	本校教員、他校教員、指導主事 本校教員、他校教員、指導主事 本校教員、他校教員 本校教員、他校教員、指導主事 本校教員、他校教員、指導主事 本校教員、他校教員、指導主事 他校教員、保護者
協 議 会	年間6回程度	四校合同会議	各校	本校・白河一小・関辺小・中央中
C D - R の 配布	平成15年 3月中旬	単元計画と研究のまとめの C D - R 配付		同地区内小学校

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- |                      |                            |                     |              |          |
|----------------------|----------------------------|---------------------|--------------|----------|
| 【新規校・継続校】            | レ 15年度からの新規校               | 14年度からの継続校          |              |          |
| 【学校規模】               | 6学級以下<br>13～18学級<br>25学級以上 | 7～12学級<br>レ 19～24学級 |              |          |
| 【指導体制】               | レ 少人数指導<br>一部教科担任制         | レ T.Tによる指導<br>その他   |              |          |
| 【研究教科】               | 国語<br>生活<br>体育             | 社会<br>音楽<br>その他     | レ 算数<br>図画工作 | 理科<br>家庭 |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | レ 有                        | 無                   |              |          |